Vol. 32
IDACAだより
JA Group
2024.3

«理事長からの挨拶»

IDACA理事長
山野　徹（JA全中会長）

2023年8月、第16代JA全中会長およびIDACA理事長に就任いたしました。何卒よろしくお願いいたします。

令和６年能登半島地震において、犠牲になられた皆様に哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

JAグループの国際協力活動を担うIDACAは、JA全中の初代会長を務めた荷見安氏の尽力により、「発展途上国の協同組合運動に従事する指導者のため、わが国に農協運動の中での学習機会を設け、国際社会の中で連帯性を育む場」として、1963年に設立され、昨年で60周年を迎えました。

設立以来事業の根幹を担う研修事業で受け入れた研修員は6,700名を超えました。研修員は、各国の農業協同組合運動の指導者として、また、協同組合の育成を所管する政府関係者などとして活躍しており、アジア諸国をはじめとする世界約135ヶ国にIDACA研修卒業生のネットワークが広がっています。

今後とも、ICA（国際協同組合同盟）やJICA（国際協力機構）等と連携した研修事業等を通じて、アジアをはじめとする各国の協同組合運動の発展と世界との共生に貢献し、IDACA研修員が我が国農業・JAの良き理解者として育つようさらに努めてまいります。

また、近年では当機関の強みを生かすべく、国際機関との連携、並びにIDACAネットワークを利用した事業実施を強化しております。世界の農業者組織が加盟するWFO（世界農業者機構）とは昨年度まで気候変動に関するワークショップ開催、今年度は政府間組織であるIGC（国際穀物理事会）とアジア太平洋およびアフリカにおける食料安全保障の状況に係る調査事業を共同実施しています。

このように、IDACAの国際協力事業は日本政府をはじめ、様々な国際機関からも高い評価をいただいており、引き続き役割を果たしていくことが国際的にも期待されています。

JAグループの一員としての役割を認識しながら、アジアの農業関係者間の情報・人的ネットワークのハブとしてのIDACAのイメージを定着、拡大させ国際社会に貢献する事業を進めてまいります。

«目次»

理事長からの挨拶……1
IDACAニュース：IDACA創立60周年記念に寄せて……2
2023年度理事、監事、評議員の紹介……3
事業報告：国際穀物理事会(IGC)主催「穀物会議2023」に出席……4
世界農業者機構(WFO)の年次総会に出席
ガーナ国立環境･持続的開発大学(UESD)との連携協定締結について
IGCとIDACAの共同プロジェクトが始動……5
研修報告：2023年度JICA課題別研修「農民組織の設立・強化」コース……6
2023年度日･ASEAN食産業人材育成 訪日研修……8
2023年度ICA農村経済活性化のための女性の役割・能力向上研修……9
編集後記……11

-IDACAニュース-

IDACA創立60周年記念に寄せて
職員OB　照沼 弘（1979年12月～2023年3月）

創立60周年おめでとうございます。

私は約43年に渡り、農業協同組合に関する外国人受入研修を担当させていただきました。日本の農協は農業関連事業や信用事業に加えて、組合員のために幅広い活動をしており、研修員は大きなインパクトを受け、自国の農協発展に貢献しています。

2000年以降は受入研修の他、６年間、ルーマニアにおける農協育成の仕事に携わりました。同国は社会主義から市場経済へ移行し、さらにEU加入の実現といった激動の中での民主的な農協育成を経験しました。

IDACAの研修施設は1986年に世田谷区八幡山から町田市相原町に移転し、環境が大きく変わりました。都市部から郊外の高尾付近に施設が移転すると、研修員は寂しいというよりはむしろ落ち着いた環境で過ごすことができ、研修員同士の交流も増えたという印象でした。

IDACAはSDGsに貢献する大切な仕事をしており、益々のご発展を祈念しております。

2023年度 理事、監事、評議員の紹介

2023年度IDACA理事、監事、評議員を以下に紹介します。

（令和6年3月1日現在）

役員	氏名	所属・役職
理事長	山野　徹	一般社団法人 全国農業協同組合中央会 会長
常務理事	小林　寛史	学識経験者 （現アジア農業協同組合振興機関常務理事）
理事	桑田　義文	全国農業協同組合連合会 代表理事専務
理事	近藤　修一	全国共済農業協同組合連合会 常務理事
理事	八木　正展	農林中央金庫 代表理事兼常務執行役員最高執行責任者
理事	廣田　武敏	株式会社日本農業新聞 代表取締役社長
理事	吉野　浩司	株式会社農協観光 常務取締役
監事	中村　純誠	全国厚生農業協同組合連合会 代表理事理事長
監事	木下　春雄	一般社団法人家の光協会 代表理事専務
評議員	馬場　利彦	一般社団法人 全国農業協同組合中央会 専務理事
評議員	岩崎　英二	独立行政法人 国際協力機構 上級審議役
評議員	藤岡　典夫	公益社団法人 国際農林業協働協会 専務理事
評議員	山越　昭弘	日本生活協同組合連合会 国際部長
評議員	稲垣　照哉	一般社団法人 全国農業会議所 専務理事
評議員	中平　和典	全国漁業協同組合連合会 専務理事

-事 業 報 告-

国際穀物理事会（IGC）主催「穀物会議2023（Grains Conference 2023）」に出席

2023年6月12～13日の2日間、国際穀物理事会（IGC）主催の「穀物会議2023（Grains Conference 2023）」に小林常務理事が出席しました。

本会議は「食料輸入国・輸出国にとっての食料安全保障の危機」を副題とし、小林常務はセッション「穀物分野における生産性と持続性の改善」のパネリストとして招待を受けました。同セッションにおいて、当機関の目的を説明すると共に、生産性や持続性の追求に関わる問題点や、市場情報/関係者間のネットワークの重要性を提起しました。また、スマート農業へのアクセスが今後の鍵であるとコメントしました。

世界農業者機構（WFO）の年次総会に出席

2023年5月21～24日に世界農業者機構（WFO）の年次総会が南アフリカ・サンシティーで開催され、小林常務理事が出席しました。

WFO事務局長とは、別途、国際協同組合同盟（ICA）研修におけるWFO研修の日程や、国際穀物理事会（IGC）との共同プロジェクトについてなど、意見交換を行いました。

ガーナ国立環境・持続的開発大学（UESD）との連携協定締結について

2023年8月2日、当機関はUESDと連携協定を締結しました。

この連携協定を基に、新事業として研修や研究等を含め事業の充実を図ります。

-事 業 報 告-

国際穀物理事会（IGC）とIDACAの共同プロジェクトが始動 バンコクでワークショップを開催

2023年12月19日、国際穀物理事会（IGC）と当機関は日本政府の拠出のもと、タイ・バンコクでワークショップを開催しました。

IGCと当機関は世界の食料市場は衝撃への耐性を備える必要があるとの認識のもと、生産者・協同組合・商社・加工業者・消費者の各団体を対象に、アジア・アフリカ・オセアニアの穀物のサプライチェーン参加者が市場情報をどのように利用しているかなど、地域情勢を事前にアンケートを実施しました。その結果を受けて、バンコクで開催したコメに関するワークショップで出席者間で議論を深めました。

2月にはトウモロコシ（メイズ）、小麦などの他の穀物について同様のワークショップをロンドンで開催しました。

＜国際穀物理事会（IGC）とは＞
IGCの本部はロンドンにあり、28か国および欧州連合が加盟している機関です。穀物の貿易に関する、国際協力の促進、貿易の円滑化、国際穀物貿易に関する情報交換等を目的に、穀物・油糧種子価格指数（GOI）の算出・公表、穀物市場に関するレポートの作成、穀物カンファレンスなどを実施しています。

-研 修 報 告-

2023年度 JICA課題別研修「農民組織の設立・強化」コース

JA上伊那 選果場（長野県）

コロナによる制約からようやく解放され、アジア・アフリカ地域から9か国/10名の研修員が本研修に参加しました。アフリカ地域からの研修員の一人が、「ようやく夢が実現し、日本に来ることができた。」と話しがありましたが、ここ数年、アフリカ地域からの参加が徐々に増えています。

研修は7月17日に開講し9月1日の終了まで、JICA筑波の施設を拠点とし、現地研修では長野県と宮城県を訪問しました。長野県では、JA上伊那での研修を中心に農協の組織と事業の取り組みを学び、生産部会のリーダーとの意見交換や、組合員農家・生産法人を訪問のうえ組織的な農業への取り組みについて考察を深めました。宮城県では宮城県庁、宮城県農業高等高校、そしてJA仙台の協力を得て、政策、農協の事業計画と加工事業・6次産業化の取り組みや、農業分野の人材育成、女性起業の事例について学ぶ機会を得ました。

今年は特に暑い夏の日々の研修の中で、研修員は暑さに驚きながらも、それゆえに思い出に残る日本での滞在となったようです。

北の原ファーム ネギ収穫作業（長野県）

-研 修 報 告-

2023年度 JICA課題別研修「農民組織の設立・強化」コース
＜参加研修員からのメッセージ＞

チュング・チビンビ
ザンビア農務省
アグリビジネス・マーケティング部
開発上級担当官

研修内容はよく構成されており、参加者に詳細な講義を提供してくれた。プレゼンテーションは非常にわかりやすく、イラストや写真、ビデオも含まれていたため、講義の内容は理解しやすかった。講師や主催者は非常に友好的で、各参加者が自由に意見を述べることができたり、理解しきれなかった点は補足説明してくれた結果、明確にすることができた。

また、研修プログラムには日本各地への移動も含まれており、必要な情報を得ることも含めて、現地の状況をより把握することができた。

長野市での滞在はすばらしかった。国際的な雰囲気があり、素晴らしく発展していた。長野県での研修期間中、研究、生産、加工、貯蔵、流通、販売を通して、長野県における農業の取組みについて見識を深めることができ、大変勉強になった。JA、リンゴ、花、桃の農園、カントリーエレベーターの見学はとても勉強になった。また、卸売市場の見学では、さまざまな農産物の競りに立ち会うことができた。

宮城では生徒たちに農業に関する質の高い知識を提供する農業高校を訪問した。若い学習者たちが、環境保全を含むさまざまな農業研究の実践に触れていることを知り衝撃を受けた。学校見学の最後には参加者一人一人が校庭に松の木を植樹する特別な時間が設けられた。その後、津波で被害を受けた旧校舎跡地に向かい、震災時の子供たちや街の人々の苦労を知り、悲しい感情に包まれた。宮城の旅は、女性たちが経営するレストランでのおにぎりと味噌汁という伝統的な食事で幕を閉じた。参加者は箸を使って食事を楽しみ、思い出深いものとなった。

研修体験と日本での滞在は楽しく、得た知識は高く評価され、それぞれの国で実施されることでしょう。

農産物直売所 たなばたけ
高砂店（宮城県）

-研 修 報 告-

2023年度 日・ASEAN食産業人材育成 訪日研修

2023年8月20日から29日まで、カンボジアとラオスから選抜された学生が、「2023年日本の食料・農業産業に関する現地調査」に参加しました。このフィールドスタディは、「ASEAN諸国大学連携による食関連人材育成プロジェクト（HRDプロジェクト）フェーズ3」の一環として実施されました。カンボジアとラオスから学生8名、教授2名、政府関係者2名の計12名が参加し、10日間の研修を行いました。

＜ラオス国立大学の生徒より＞

短期間でトレーニングコースの内容の全体を把握するのは難しいかもしれませんが、実際に体験することでより理解が深まりました。貴重な思い出に残る学習体験をした時間は大切であると感じました。
より多くの知識を得るために、今回のようなコースがあれば嬉しいです。
このような機会を与えていただき、本当にありがとうございました。

＜カンボジア王立農業大学の生徒より＞

研修全体を通して、日本の食産業の内容を深く学ぶ機会に参加できたことをとても嬉しく思っています。 私が学んだことは、先進国の食料生産や農業の事についてでしたが、私達にも役立つ重要な知識ばかりでした。 本当にありがとうございました。

ＪＡ紀の里 ファーマーズマーケットめっけもん広場
（和歌山県紀の川市）

-研 修 報 告-

2023年度 ICA農村経済活性化のための女性の役割・能力向上研修

JA信州うえだ直売所にて（長野県）

ICAアジア太平洋地域事務局（ICA-AP）からの委託を受けて、アジア・太平洋地域の農村女性の地位向上、所得向上につながる起業活動推進などを目的としたICA女性研修を、2023年9月1日から１４日まで実施しました。

対面での研修実施は3年ぶりであり、またIDACAが新しい事務所に移転して初めてのICA研修受け入れとなりました。

インド、キリバス、ラオス、マレーシア、ネパール、タイ、ベトナムから７名の女性リーダーが参加し、自国での事前配信された講義動画の視聴、タイでの現地視察研修に引き続き、日本での研修に取り組みました。

現地研修では長野県を訪問し、JAグループの地域社会に果たす役割、農村女性による農産加工、販売の取り組み、農村開発における女性の参画、環境に配慮した農業の取り組みなどを学び、ここで得た知識、情報をそれぞれが自国における課題改善のために作成するアクションプランの参考にさせていただきました。さらに、JA長野県女性協議会のつどいの傍聴やJA全国女性組織協議会の久保会長との意見交換会、地元JA女性部の皆さんとの文化交流の機会を得ることができ、研修員の皆さんにとっては思い出深い現地研修となりました。

JAあづみ女性部の皆さんと文化交流会（長野県）

-研 修 報 告-

2023年度 ICA農村経済活性化のための女性の役割・能力向上研修
＜参加研修員からのメッセージ＞

この2週間は長野県でのJA訪問、事例の視察、意見交換会など、素晴らしく驚くべき教育的な経験でした。最も重要な内容と感じたのは、日本の農業の発展のために日本の農家を守り、支援する日本の農業協同組合（JA）が果たしている役割です。日本には、自治体レベルから全国レベルまで、非常に体系化されたJAが存在し、生産から格付け、包装、出荷、販売、流通に至るフードバリュー・チェーンに加え、組合員のための信用・共済事業、営農指導活動などの教育、医療・福祉サービスをいかに適切に実践しているかを学ぶことができ、非常に有意義な経験となりました。他にも事例の視察から日本の農村女性の社会的・経済的活動への参加、特に農業への参加が、JAの成功の鍵であることを理解しました。地域に根ざした持続可能な農業生産を通じて、家族経営をベースにした農家は日本の地域社会全体に貢献する重要な役割を果たしているものと考えます。

今回の研修では、特に農業協同組合について、タイと日本の両国から多くのことを学びました。この研修で得た知識を母国で実践するために作成したアクションプランに反映させたいと思います。

ノルファヒダ　ハスブラ（マレーシア）手前右から３人目
マレーシア協同組合協議会（ANGKASA）
農業・プランテーション課 職員

-NEW FACES-
新しいメンバーの紹介

教務・開発グループ　千葉さん

JAグループの農業の取組みを
世界に情報発信していきたいと
思います。

企画グループ　鈴木さん

前職で得た経験や知識を
IDACAで活かし
業務の効率化に貢献できるよう
努めます。

教務・開発グループ 阿久津さん

IDACA職員として、
JAグループの名に恥じぬよう
各国との関係構築に
尽力します。

総務グループ　山梨さん

総務グループで経理の担当
をしている山梨です。
IDACAの即戦力となれるよう
がんばります。どうぞよろしく
お願いいたします。

● 編集発行:　一般財団法人アジア農業協同組合振興機関
東京都町田市森野２丁目３０番１４号　TEL: 042-860-7801 FAX: 042-860-7802